The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	並河寒泉『辨怪』翻刻(二)
Author(s)	佐野, 大介
Citation	懐徳堂センター報. 2006, 2006, p. 101-109
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24432
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『懐徳堂センター報』二〇〇六（大阪大学大学院文学研究科・文学部懐徳堂センター　二〇〇六年二月二八日発行）

並河寒泉『辨怪』翻刻（二）

佐野大介

本稿は、並河寒泉『辨怪』の「破怪」部を飜刻したものである。なお、『懐徳堂センター報』二〇〇四（大阪大学大学院文学研究科・文学部懐徳堂センター、二〇〇四年二月）掲載の、「並河寒泉『辨怪』飜刻（一）」の続編にあたる。

凡例等は前稿に倣うが、読解の便のため、新しく語注を附した。

辨怪既ニ著ハス三篇ヲ、予之老婆心、猶未タ盡キ也、乃又援キ其餘毫ヲ、記シ今古ノ説話、渉ル於辨怪ニ者十餘條ヲ、以付其後ニ、名テ曰ク破怪ト、欲スル使ント讀者ニ類推シ而破ル怪ヲ也、世所ノ謂フ怪ニ有レ三ツ焉、有リ出ル於詐謀ニ者、可キ詰リ而破ル焉、有リ實ニ於彼ニ而怪ム於此ニ者、可キ窮メ而破ル焉、有リ彼ニ怪ク而此ニ不ル怪マ者、可キ以自ラ破ル焉、詰也窮也自也、其歸スル於破ルニ一也、作クル破怪三篇ヲ、

破怪上

詰破篇六條

金峯山有リ小角祠、世傳フ、山ニ有リ天狗、神役也、白衣團徒、崇敬甚シ、有リ一士、甚不レ信セ怪ヲ、嘗遊觀登レ山ニ、山ニ有レ寺、會ス白衣千數來リ集ニ、士モ亦與ニ宿ス、終夜極メ口ヲ詬ニ詈ス天狗ヲ、團徒及ヒ大小達師、僉ナ大ニ恚リ厲メ聲ヲ曰、何ニ等ノ妄言、吁ク勿ル躰ル哉、今而不ル止メ、狗賓公驀ル忽一攫、身首劈ル、士詈テ猶尚不レ止メ、寺宇忽チ震動シ、楹桷如レ崩カ、僉ナ曰ク果メ然リ、口呪シ神號ヲ、畏伏唯ク謹、士神色自若、寺ハ蓋スル架ル澗ニ者、箝シ材ヲ其柱趾ニ、踐ミ之ヲ以撼カスト之ヲ云、士出テ瞰ス焉、後廡夜色黯黮、模糊有リ影、

就テ捕獲シ、舉ケ火ヲ視ルレ之ヲ、高鼻突眼甚口、顔色如レ朱ノ、額ニ有レ巾、背ニ有レ翼、所レ謂フ狗賓也、即チ頓捽捶擊、蹴蹈兼テ至ル、臉剝シ翼脱スレハ、則顯然人也、士瞋ンテ之ヲ曰、狗奴訴ンレ官ニ、寺主駭懼、走リ出テ稽顙謝ス曰、彼レ何ソ知ン、吾レ過ツ矣、彼レ給スル斯ノ役ニ、一日僅ニ二百、今赴ク公廷ニ、旬日錢一瞬且罄ク、請賜ニ憐怒ヲ、以私免セヨ焉、士笑ヒ而棄テ去ル、白徒千數唯ク呀然、

或人行ク德菴堤ヲ、前後不レ見レ人ヲ、唯ク見ニ一乞人ヲ、乃欲シ慰セント間ヲ、語リ且行ク、問奚レ自リス、曰自ス和、曰和中何ノ處、曰金峯山下、曰何ノ所レ爲ル、乞人嘿然、詰問再三、不レ言、乃曰、告ケハ實ヲ則予ヘンニ女チニ百錢ヲ、乞人色悅ヒ乃鞠躬低テ聲ヲ曰、傭賃爲ルニ天狗ト、賃錢幾ク許、曰一日二百、何ソ去レ之ヲ也ヤ、曰請託之多キ、交代有レ期、僕任滿チ而去也、其人嗑然、與ヘ錢ヲ而去、付ニ記シ之ヲ以證ストニ前話ヲ云、

【語注】○金峯山　吉野山から大峯山にかけての一帯。ここで役小角（役行者）が金剛蔵王大権現を感得したとされる。○狗賓　天狗の別名または眷属。

備邸ノ處守奥田正助一日來リ謂テニ於蕉園先生ニ曰、吾カ家奴、前二日不レ知レ所ヲ行、今一旦啓ケハ門ヲ、則竚ニ立ス柳岸ニ、抱關走リ就キ問レ故ヲ、不レ應セ、精神恍尓、再三スレハ則徐ク曰、前二夕、將レ扈ニ迎セントニ阿主ヲ于府南ニ、途遇ニ一浮屠ニ、謂フ女チ好ニ觀戲ヲ、今我拉ナヒ行カン、乃挾ミ臣ヲ昇リ天ニ、飄然駕ス風ニ、一瞬而道ニ頓渠矣、場之所在、西東周觀ス、又去テ之ク他ニ、盡シ觀ヲ而止ム、倏爾至ルニ于此ニ也、問ヘハニ何ヲ食フ、則袖中出スニ一裹ヲ、啓ケハ之ヲ則有ニ馬矢ニ、抱關入リ報ク曰、奴也爲ルニ天狗ノ所トレ攫ム、果ク有ルレ之邪、先生曰、是レ詐謀耳、子還リ詰レ之ヲ、首スルレ實必ス矣、正助奮然還リ、召ク

詰レ之ヲ、從ヒ加ニ鞭朴ヲ、奴泣キ且謝ス焉曰、所レ誘ナフ非ニ狗賓ニ、是レ酒仙矣、斯ノ術モ亦仙之所レ授也、臣有レ罪、放斥唯ク命、

【語注】○抱關　門番。○倏爾　たちまち。○裹　包み。○馬矢　馬の糞。

山片子厚ノ家僮、出テ而不レ還、歴レ日ヲ而後還、問ニ其所ヲ一之ノ、其答辭狀態、略ク如ニ備邸之奴ノ一、要歸スルニ于天狗ノ一攫ニ也、子厚乃召シ僮ヲ厲ス聲ヲ曰、再攫弗レ赦矣、

信之善光寺、佞スル佛ニ之徒、新ニ遇レ喪ニ必往キ祈ル焉、寺主使ス之ニ見セ新鬼ヲ以取レ信ヲ、寺邊有ニ厲鬼村一、鬼ハ其村民賃役スト云、山片子厚嘗置ニ新僮一、信之産也、問ニ父何ヲ爲ルト一、僮不ニ肯テ言一、再三詰レ之ヲ、卒ニ不レ言、家人怪ミ、使ニ人ニ從容叩カレ之ヲ、僮沈吟次一且シ、久ス之ヲ曰、臣カ父ハ厲鬼也、其人驚キ怪ム、僮乃告ルニ以スレ故ヲ、僮ハ卽チ厲鬼村民之子也、家人聞キ其ノ故ヲ一大ニ笑、

【語注】○次且　行こうとして前進できないさま。ここでは、なかなか話し出せない様子を表す。「次且、行不前進也。」（『周易』夬「其行次且」正義）

蕉園先生如キ伊丹ニ宿ス釀家ニ一、或人告テ曰、某氏新ニ喪フレ婦ヲ、既ニ葬、其靈夜リ來リ求ム遺服ヲ、說ク染色章樣ヲ一、無ニ一差一矣、主人甚怖ル、自ニ戶隙一投ニ與シ之ヲ一、唯ク屛息ス、先生召ス保徒數輩ヲ曰、此レ必女盜矣、今夕必來ラン、汝等要シ而捕ヘレ之ヲ、乃捕レ之ヲ、果ス其家ノ舊乳婢也、

【語注】○説染色章樣　色や模樣を説明して、の意。

坂府ノ郡官池田君ノ代事有ニ高橋某一、鷸野邑正來リ訴テ曰、

村翁自言、予村祠ノ靈狐也、齡已徑千霜、昔有祠田若干頃、村民蠶食、不遺一頃、予失饗久、村民不享大甚、今而不復古、殘害闔邑、無復噍類矣、敢請、爲之何如、某曰、汝答之曰、我聞昔豐太閤、瘞藏若千萬金、以充軍資、而不言其所在、□國家索而不獲、以至于今、今神言已歷千霜、意其爲靈昭也、必知其所在、今果指示其所在、祠田復古、胡止若干頃、爲百爲千、唯神所命、邑正歸以告、翁憮然曰、神已去、愚老何知、

【語注】○噍類　物を食べる者。生民。○瘞藏　埋め蔵する。

破怪中

窮破篇六條

一僧醉歸、擲軀而寢、夜半急雨、驚且寤、廬外十步有叢塚、瘞埋横死之處也、焰焰燐燐、陰燐爭燃、僧見之、輒把飯箸數十枚而往、火起脚下、隨燃隨揷、盡數後反、明旦見之、揷箸之處、皆樹下ノ霤窠也、蓋骼胔之宿膩、激滴發光也、

【語注】○霤窠　雨だれによる窪み。○骼胔　骸骨。肉の付いた骨。
○宿膩　くっついた脂。

坂商如越、途暮、曠野十里不見家、旁見古祠、入宿、及旦祝來升階、商駭寤、自龕罅窺之、惶怖不知所爲、啓龕、商卽拔神幣拷之、祝愕然、轉墜階下而絕、商躍出而奔、情急、足不擇地、行半里、心悸稍定、始覺幣之猶在手也、棄于田間而去、後復經此、見一大新祠、結

構儼然、金碧輪煥、商大怪、憩且問焉、茶媼曰、祠神威靈之赫、非他之比、請子敬聽、妾語子故、昔時有祝氏、放惰不勤、土木弗修、粢盛弗潔、有神不屑之、一日祝至啓竈、則震怒暴發、一蹴倒祝階下、神忽飛去、遠閟其靈蹤、闔邑驚擾、搜索不遺、居數日、出現于半里外田間、即輿而還、造斯新祠、更祝以奉祀焉、嗚呼祠神之靈、不可斁若此夫、商曰、靈哉神也、匿笑而去、

【語注】○竈罅　厨子の隙間。○輪煥　建物の壮麗なようす。○閟其靈蹤　行方を隠した、の意。○斁　厭う。

小野渉之進某侯臣也、好馴養籠禽、一日開籠而玩、有貓一攫而去、渉追不及、乃坐臥行住、不釋弓矢、偶見貓屋上、一發斃之、就視不是、渉太悼之、既而貓鳴四起、門堦戸席、莫不咿〃也、卒成疾、伯子聞之、來讓曰、汝生武閥、委命徵獸、其如君何、胡不遄死、剋日而去、及期伯莅、渉袒將剸刃、伯捉其手曰、貓聲猶有乎、渉低首良久曰、無有也、曰是也、曩汝心一於貓、今汝心一於死、貓聲有無、果在汝心、非貓之所知、汝既知之、何用死、其慎後、

【語注】○咿〃　動物の鳴き声。○剋日　期日を定めること。○捉　止める。○曩　さきに、さきほど。

村丁夜歸、野逕昏黑、十步外見一巨人、身長丈餘、被髪毳〃、臥身而擡首、頓足躍地、丁身竦、

足縮マル、竚留良ク久、無二復他岐一、徐歩漸ク前ム、形色稍ク辨スレハ、則農夫農婦、路傍ニ納涼スル也、臥シ而頓足スル者夫也、擡タケ首ヲ被髪スル者、婦立チ二其枕上一ニ而梳ツル也、丁ノ心始テ定ル、

【語注】○毳〻　毛の長いさま。○頓足　地団駄を踏む。

竹山先生聞キ二其家ノ女有ト一二貍憑スル一、命シ二古林子潜一ニ、往キ胗ス、且曰、是レ必血疾、貍何ソ與ラン、子潜乃往キ、啓ケハ戸ヲ則女遽然走リ出ツ、腰係ク二鎖鎖ヲ一、顔色垢黧、雙瞳熒〻、散髪被リ面ニ、頓坐瞋ラム二子潜ヲ一、貍憑之名、所二以得ル一也、子潜從容上リ坐ニ、胗シ而去、反命ス曰、果如二先生之言一、

【語注】○往胗　往診。○垢黧　垢で黒い。

或人問テ二於竹山先生一ニ曰、我ニ有二土木場一、行人傳ヘ言、毎夜有二鬼火一、旋一轉ス場外一ニ、必在リ二二三更ノ間一ニ、我レ巡ルモ夜ヲ亦其時、而未ル二嘗見一之ヲ也、不レ知何ノ鬼焰、先生問、巡ル夜ヲ秉ル燭ヲ與、曰固ヨリ也曰是レ無キ何ニ也、所ノ執燭光、泄一射シ於圍板孔罅一ニ、逐ヒ二子ノ歩ヲ一、旋轉移動閃〻如也、塞ケハ孔ヲ則止、乃糊紙塞ク之ヲ、不三復言二鬼火ヲ一、

破怪下

自破篇六條

關原ノ役、□照大君西上ス、或人諫テ之ヲ曰、今年西方塞ル、恐クハ戰無レ利、□大君哂テ曰、西塞ル矣、我レ東發以啓ク之ヲ耳、即チ發ス、

【語注】○照大君　徳川家康（東照大権現）を指す。

甃菴先生命レ匠ニ、齋壁穿ツレ牖ヲ、匠顰蹙テ曰、金神也、啓グレ之ヲ弗祥、先生軟然笑テ曰、金神果テ弗祥乎、啓キレ牖ヲ而逐ヒ出ス之ヲ、可也、遂令レ穿タ、

【語注】○金神（こんじん）　陰陽道・神道の神。年や季節ごとに方位を移り、その方位を犯すと神罰が下るとされる。○軟然　笑うさま。

群士相集リ論ジ剣相ヲ曰、崇リ而善ク殺レ人ヲ者、凶剣也、碩果先生自レ傍聞テ之ヲ曰、斫ル人ヲ剣ノ職也、善ク斫ル、最得ニ其職ヲ者也、剣相之吉何ソ如カン之ニ、何ソ言ン崇ルト、何ソ言ン凶ト、但ク善ク殺レ人ヲ、是レ人殺レ人ヲ也、何ソ有ン於剣ニ、罪在ルニ於人ニ也、在坐感服ス、

一門生問テ曰、頃日某氏ノ馴猫、頭戴キ手巾ヲ、而踊舞ス、如何ン、碩果先生哂テ曰、斯ノ事今古善ク言レ之ヲ、奚ソ足ン怪ニ、是レ猫之狂戯耳、懸巾下垂、人※立跳戯ス、猫之常態、垂巾閃如、或觸レ于頭ニ、或于レ軀、或于レ尾、唯ク狂勢所レ在ル、猫何ソ自ラ戴ン、其人悦服ス、

衢壤之村、嘗毒ス于狐ニ、有ニ祝左内ナル者ニ、善ク驗ルス、村民往キ謁ケ焉、請レ禁スルヲ狐ヲ、期スニ三日ヲ、果テ驗ルス矣、或人問レ之ヲ、答テ曰、衢壤之西、有ニ神丘、九狐據ル焉、吾レ往キ禱スル焉三夕、禱ス之ヲ如何ン、曰捧シ豆飯ヲ奠キ于窟ニ、執レ桐侍立ス、狐出テ而飯ス、輒チ桐ツレ之ヲ、一夕三狐、三夕而殲ク矣、禱之驗ルス不ニ亦宜ヘナラ乎、

【語注】○據の左下部に虫損あり。○桐　「枴（つえ）」の俗字か。

府ニ有ニ河大郎ナル者ニ、好ミ爲スニ奇異之行ヲ、蓋憤フル世ヲ也、嘗入リ行者社ニ躋ルニ金峯ニ、峯ノ優婆小角修業之處也、巉

巖崎嶇、斷崖萬尺、其半腹安不動ノ像ヲ、社首令其徒ニ俯而瞰之ヲ、以儆懲其惡行ヲ、山危嶮不可足、其將瞰也、縋且護持、匍匐而臨之ニ、心悸股戰、岌乎無復人色、既瞰、社首問尊像得瞰ヲ否、瞰者曰、既瞰既瞰、乃儆戒鄭重而後止、例也、河大瞰焉、問得瞰ヲ否、應曰未也、又問、曰未也、怪而挽起之ヲ、則手採長索ヲ、索端縛松魚脛ヲ、社徒僉異之ヲ、河大笑曰、欲以釣天狗ヲ耳、衆僉震怖失色ヲ、世傳山多天狗、神役也、若帶葷腥ヲ、必被攫拐、河大是ノ日竊懷脛ヲ而攀焉、蓋亦憤世之信怪ヲ也、

【語注】○巉巖　山が切り立っているさま。○崎嶇　山道がけわしいさま。○股戰　怖くて腿が震えるさま。○松魚脛　鰹の干したもの。鰹節。○葷腥　においの強い野菜や肉類。○攫拐　つかみねじる。

或人論方位吉凶ヲ、疊々不已メ、朋來曰、毋レ、方位自人命スル者、何ソ吉凶之有ン、古人有リ言ハ曰、東家之西ハ、則西家之東、果メ無キ定位也、吉凶ハ則在リ人ニ、方位何ソ與カラン、且也方位言吉凶ヲ者、皆隨其私意ニ已、非公論ニ矣、其人愠リ且曰、方位ノ吉凶、本ト宇宙間ノ公事、何ソ言レ隨ト私意ニ、朋來掉ツテ首ヲ曰、否々、夫ノ移シ家ヲ鑿ツ井ヲ者、避ル金神方塞ヲ、往々吾レ聞レ之ヲ、至レハ收ルニ債ヲ、則避ル金神方塞ヲ者、吾レ未タ之ヲ聞也、且也方忌之事、瑣々屑々、勢曆盡ス之ヲ、溲溺ノ鄙猥、猶且用イ之ヲ、至リ收ルニ債ヲ、寥乎不ル問者、獨リ何ニ也ル、不レハ忌則已ム、何ソ擇フ於忌ニ、抑ク方位之神モ、亦不ル嫌銅臭金氣ヲ與、可捧腹ス矣、是レ非レ隨フニ私意ニ而何ソ、是レ非レ隨フニ私意ニ而何ソ、其人不ニ復言ニ、

【語注】○收債　賃金を取立てる。○溲溺　小便する。

朋來十四五歳、侍二親於京一、家在二西洞春里之南一、矮屋古壞、有二老貍一在二敗庫之窟一、里有二西洞古貍之稱一、寒曉能鼓レ腹、先君屢聞レ之、有レ時入レ吟、一日昧爽、推二醒朋來殘夢一曰、貍也鼓レ腹、朋來乃起坐側聽、有レ聲在二庫外一、烏〻然如レ叩レ甕、窓隙窺レ之、貍人※立斜欹倚レ壁、其腹便〻、兩手互鼓、左拊右擊、徐〻焉、其狀宛如レ有二熙遊之意一、赫胥氏之民可レ想也、腹之便〻、飽滿也、鼓レ之以弛其飽苦也已、復奚怪、當是時也、母氏有レ病、朋來常執爨、厨政之間、濯釜殘瀝、漑斗餘粒、悉傾之庫前一以餧焉、貍又夜間入レ厨、就二飯斗一饜食、朋來屢苦其警備一、此レ其爲二飽滿之道也、鼓腹之樂、不亦宜乎、抑老貍鼓腹之事、唯圖畫上見レ之、未レ知二其眞與一レ妄也、而當時既如レ此、與夫翁笠瓦壇立於夜雨者、其眞妄固不レ待レ言也、世之談レ貍者、唯喜二其妄一、而不レ知二其眞一、怪談之所二以不一レ已也與、抑斯談也、亦自破之一端與、

【語注】○熙遊　たわむれあそぶ。○赫胥氏　古の帝王。炎帝・神農・華胥氏などのこととされる。「赫胥、上古帝王也。……鼓腹而邀遊、將童子而無別。」（『荘子』馬蹄「夫赫胥氏之時」成玄英疏）。○執爨　かまどを司る。○翁笠　竹の皮で作った笠。

※、縦棒は、その位置を底本に沿うよう努めつつ、印刷の都合上、行右・行中・行左の三種に分類したが、例えば「人立」語には、行中に記されたものと行右に記されたものとが両存する。

※、「破怪」全体では、「渉於辨怪者十餘條」としながら、全二十條あり、また「自破篇」では、「自破篇六條」としながら全八條あるのは、寒泉本人の体験を述べた最後二條を数えないためか。

（台湾・明道管理学院助理教授）